

中小企業を活性化し、成功を探求する経営誌

理念と経営

CORPORATE
PHILOSOPHY

6

2017 June

特集 戦う後継者

父が遺した子への布石

株式会社コバック

代表取締役 小林憲司

山本ビニター株式会社

代表取締役社長 山本泰司

株式会社エムダイヤ

代表取締役 森 弘吉

時流を読む

英国のEU離脱で日本企業が注目すべき2つの焦点

作家 黒木 亮

若手社員に贈るメッセージ

僕は、やっぱり夢に向かってがんばる若者には「がんばれ」と言いたい

芸人／作家 又吉直樹

巻頭対談 王道の経営—真価に挑む

時代の潮流を読んで、風の起きそうな場所へ船を出せ

一般財団法人日本総合研究所会長

サラヤ株式会社代表取締役社長

寺島実郎

VS

更家悠介

CASE 2

山本ビニター株式会社
代表取締役社長 山本泰司
やまもと やすし



会社概要

創業 1953年 事業内容 高周波応用機械の製造・販売、医療機器の製造・販売
従業員数 135名 本社所在地 大阪府天王寺区
資本金 8500万円 ホームページ <http://www.vinita.co.jp>

何も教えないことで

父が叩き込んだ創業の精神

父の経営方針や考え方への違和感。それでも父の貫いてきた身の丈（たけ）経営が、今、経営者としての私の信条になっている

「体調が悪いんや」の言葉に

実家に戻ってみると

父はピンピンしていた

二代目というと、子どものころから「将来はお前が会社を継ぐのだ」と繰り返し親に刷り込まれながら育つようなイメージがある。ところが、山本ビニターの山本泰司社長には、そういう記憶がまったくない。時折、父の口から出るのは決まってこのせりふだった。

「お前は商売人じゃないから医者にな

もなっとけ」

はるとし

父・晴敏氏は高専を卒業すると、奈良の田舎から裸一貫で大阪に出てきて

はだかいつかん

セロファン問屋に就職。そこで当時新素材だった塩化ビニールと出会い、

一九五三（昭和28）年に現在の会社の前身である山本ビニールを創業する。

当初はビニール生地 of 卸売りをし

ていたが、すぐに、それだけでは芸がないと高周波でビニールを溶着する

よつややく

技術に着目、雨ガッパや玩具といった

がんぐ

高周波加工品の販売も始め、それが軌道に乗ると今度は高周波加工機械の

製造・販売にも手を広げる。その間、会社は業績を伸ばし続けたというから、晴敏氏がかんがりのやり手だったことは想像に難くない。だから、普通よりも裕福な家庭で大了た苦労もなく育ってきた息子には、切った張ったの商売での経営は無理だと思っただのだろうか。

「真意はわかりません。とにかく進路に関して父は何も言わなかったたので、私は大学を卒業すると東京の大手総合商社に就職しました。自分は自分の人生を歩むつもりでしたが、一方で、自分は長男ですから、いずれは父の会社に入ることになるのかもしれないという思いも、頭の片隅にはありました」

その日は意外に早く訪れた。入社から四年間財務部門に籍を置き、次は国内営業か海外

勤務か、いよいよ商社マンの醍醐味（だいごみ）を味わえると期待に胸を膨らませていたところに、突然「戻ってこい」という連絡が父から入る。さすがにこのタイミングはないだろうと難色を示すと、「このところ体調が悪いんや」と



創造の拠点とする大阪・八尾工場内